

\*\*\* 記

\*\*\* 事 \*\*\*

消息

第五回韓日東洋醫學 SYMPOSIUM

松岡 尚則

二〇〇五年十月二十日から二十三日に開かれた第十三回国際東洋醫學學術大會 (13th ICOM) の開催にあわせる形で標記の会議が二〇〇五年十月二十二日韓国大邱のEXCOを会場に開催された。主催は韓国東洋醫學會、日韓東洋醫學シンポジウム実行委員会。後援が国際東洋醫學會 (ISOM)。

会議は三部に分けて行われ、第一部は「高齢化社会の漢(韓)方」の議題で、座長は安井廣迪先生、金英信先生によって行われた。日本からは、京都府立医科大学東洋医学講座 三谷和男先生による「高齢者社会における補剤の役割―補中益気湯と通して黄耆と人参の相乗効果を知る―」という演題。韓国からは、大韓韓方海外醫療奉仕團理事/崔韓醫院 崔洄豪先生による「老人病と韓方治療」との演題であった。

第二部は「桑韓醫談と北尾春圃」の議題で、座長は吉富誠先生、金英信先生によって行われた。第二部では、日本

から日本TCM研究所/ISOM日本支部理事 安井廣迪先生による「北尾春圃」という演題。韓国からは慶熙大學韓醫科大學醫史學教室 車雄碩先生による「桑韓醫談中奇斗文、北尾春圃」、韓国韓醫學研究院學術情報部首席研究員 安相佑先生による「東ASIA傳統醫學交流の韓國韓醫學文獻調査」という演題であった。

第三部はこれら演題に対しての総合討論であった。

このシンポジウム会場には、第十三回国際東洋醫學學術大會の本会場より多いのではないかと思われる人がみうけられた。両国を代表するようなシンポジストの顔ぶれで、質疑応答ともに活発に行われた。専門的な内容が伴うような質疑応答に対して、金英信先生と吉富誠先生による通訳・翻訳がわかりやすく、スムーズな運営が行われた。このシンポジウムに対して作製されたテキストも日本語・韓国語双方の言語に訳されており、事前の準備もたいへんであったと思われる。韓国東洋醫學會、日韓東洋医学シンポジウム実行委員会の熱意と努力に感謝を申し上げ、労をねぎらいたい。

次回、第六回日韓東洋医学シンポジウムは平成十八年六月の日本東洋医学会にあわせて行われる予定である。